

放射線に関する Q & A

放射線は目に見えません。しかし正しく認識し、対処することで過剰な心配や、無用な被ばくを避けることができます。放射能対策室では定期的に、この Q & A を連載していきます。

監修＝相馬市健康対策
専門部会委員、東京大
学医科学研究所
坪倉正治
作成＝放射能対策室



Q ガラスバッジで比較的高い線量が出た方はどのような生活をしているのですか？

A 数カ月間にわたって携帯してもらい、その間に受ける、外部被ばく量の合計を測るのがガラスバッジ検査です。正確には、茨城県大洗での震災前の空間線量（年間で約 0.5mSv）よりどの程度被ばく量が増えているかを調べています。

市では、平成 25 年 5 月 1 日から 7 月 31 日の期間、3,173 人（中学生以下と妊婦）を対象にガラスバッジの測定を行いました。結果は表の通りで、多くの方の値が、去年に比べ減少してい

年間推定線量 (mSv)	人数	うち男	うち女
検出なし	1,349	654	695
0.2 以上 0.4 未満	1,344	644	700
0.4 以上 0.6 未満	354	167	187
0.6 以上 0.8 未満	90	37	53
0.8 以上 1.0 未満	28	17	11
1.0 以上 1.2 未満	6	3	3
1.2 以上 1.4 未満	0	0	0
1.4 以上 1.6 未満	2	0	2
1.6 以上 1.8 未満	0	0	0
計	3,173	1,522	1,651

ます。市が設定した目標値（1.6mSv/年）を超える方は、去年は 16 名であったのに対して、今年は 0 名でした。99% 以上の方が、いわゆる 1mSv 以下であり、現状の生活での被ばく量が低く抑えられていることを示しています。1mSv という基準は非常に厳しい基準であり、今現在、被ばく量を軽減するために、子供達の生活を制限する必要のあるレベルにはありません。

同一のご家庭で計測すると、大人の方が子供より高い値になる傾向があります。子供の外部被ばく量が抑えられる理由は学校です。学生は長時間、遮蔽の効いている建物の中（学校）で生活するためです。大人の方がガラスバッジの結果が高くなる理由は仕事によります。例えば昼間山間部のやや線量のある場所にて作業されることが多い場合は、子供の計測値が 1mSv/年ぐらいであっても、大人で 3～4mSv/年ぐらいになったりすることもあります。逆

に、仕事が事務作業や、大きな建物の中で仕事されていたりする方は、低めになることもあります。一瞬通り過ぎるかもしれないホットスポットを気にするのはなく、長時間生活する場所の線量をいかに下げるかが重要です。

Q 除染で発生した可燃性廃棄物の焼却は、安全なのでしょうか？

A 市は、除染作業で排出された枝葉等の可燃性廃棄物、約 100 トンを 10 月 9 日から 4 日間にわたって試験焼却をしました。その結果、排ガスの放射能測定値は検出下限値未満（セシウム 134, 137 各 2 Bq/m³）であり、試験焼却では問題は見られませんでした。また、仮設焼却炉周辺の空間放射線量も計測を行っていますが、周辺地域と比べ空間放射線量に変化は見られませんでした。

今後の処理を進めるにあたり、測定の結果、排ガスから検出下限値を超える放射性セシウムが検出された場合においては、ただちに焼却処理を中止することとしております。また、継続的に周囲の空間放射線量や、焼却炉からの排ガスの放射性物質濃度をモニタリングし異常の有無を監視することとしており、その測定結果を広報紙やホームページに定期的に公表していく予定です。

また、焼却された可燃性廃棄物中の放射性物質は、焼却後の灰に濃集されます。焼却灰は、フレコンバックに入れ、遮水シート等で覆い、焼却灰専用の仮置場で安全に管理されることとなっています。

除染で発生した枝葉等の可燃性廃棄物については、現在大型土嚢袋で現場保管しておりますが、早期処分の要望がされており、今後除染を計画している地区等においても同様の要望があるものと思料されます。

市としましては、市民の安全、安心を最優先にして、安全性を確認しながら市民の生活環境回復のため着実に除染を進めてまいりたいと考えております。

出典および参考資料：相馬市ホームページ